

『金光明經』の研究

——「最浄地陀羅尼品」の構造について——

ウルジ ジャルガル

1. はじめに

菩薩の実践道としての十地説は『大事』並びに般若系、華嚴系等の大乘經典に説かれている。これまで十地説については多くの研究がなされてきたが、『金光明經』(Suvarṇaprabhāsa-sūtra 以下 *Svp*) については未解明である。そこで、本稿は十地説に注目し、それに言及する *Svp* 「最浄地陀羅尼品」の内容を考察したい。

Svp の現存サンスクリット本には「最浄地陀羅尼品」の相当箇所はなく、以下に列挙する漢訳等の資料にのみある。漢訳：(1) 宝貴合『合部金光明經』¹⁾、(2) 義浄訳『金光明最勝王經』²⁾。チベット語訳：(1) 法成の義浄訳からの重訳 *Hphags pa gser ḥod dam pa rnam par rgyal baḥi mdo sdeḥi rgyal po theg pa chen poḥi mdo*³⁾、(2) ジナミトラとシーレンドラボーディとイエ・シェ・デの三人による共訳 *Hphags pa gser ḥod dam pa mdo sdeḥi dbaṅ poḥi rgyal po shes bya ba theg pa chen poḥi mdo*⁴⁾。モンゴル語訳：(1) マティ・バドラ・サガラ・シュリ・バドラ・トイン・チョルジ訳 *Qutuy-tu degedü altan gerel-tü masi teyin böged ilayuy-san sudur-nuyud-un qayan neretü yeke kölgen sudur*⁵⁾、(2) シェラブ・ツェンゲ訳 *Qutuy-tu degedü altan gerel-tü erketü sudur-nuyud-un qayan neretü yeke kölgen sudur*⁶⁾。

以上の資料、特に義浄訳を中心に、この章を内容上「菩提心」「十地」「經典功德」の三部分にわけて考察する。

2. 菩提心

「最浄地陀羅尼品」では、最初に、師子相無礙光焰菩薩が登場し、仏に礼拝する。いろいろな花、香、宝幢、幡蓋を持って供養した後、仏に対し「世尊よ、いくつの因縁によって菩提心を得るのか？菩提心とは何か？」⁷⁾ という質問が投げかけられる。続いて、「菩提において過去未来現在の三時に心は得られない、菩提から離れて菩提心は得られない。言葉によって菩提を説くことはできない。心も色

形もなく、どのようなことをしても作り出すこともできない。衆生もそれを得られない、またそれについて知ることもできない。どうやって諸法の甚深の意味を知ることができるのでしょうか？」⁸⁾ という質問に対し、世尊が「その通りだ。菩提心は微妙であり、事業と造作によって得ることはできない。菩提と心とは真如と同じである」⁹⁾ などと説き、その後十波羅蜜による菩提心について説明する。

經典では十種の波羅蜜による菩提心は「菩薩摩訶薩の十種の菩提心の因」¹⁰⁾ と名づけられ、菩薩摩訶薩がそれぞれ五条件（=五種法）で構成される十種の波羅蜜によって菩提心を得ることが説かれる（【図I】参照）。そこに説かれる波羅蜜には十七種の意義があるとされ¹¹⁾、いわゆる十種の波羅蜜のそれぞれによる菩提心によって、十地を段階的に進める条件を説いている。

【図I】：

| 菩提心 | | | 十地 | | | | | |
|-----|----------|-----|------|----|----|--------|-----------|--------|
| 五種法 | 十種の菩提心の因 | 菩提心 | 菩薩 | 十地 | 無明 | 波羅蜜を行う | 十種の発心 | 十種の陀羅尼 |
| 五条件 | 布施波羅蜜 | 菩提心 | 初地菩薩 | 歡喜 | 二種 | 初地に布施 | 妙宝三昧 | 依功德力 |
| 五条件 | 持戒波羅蜜 | 菩提心 | 二地菩薩 | 無垢 | 二種 | 二地に持戒 | 可愛樂三昧 | 善安樂住 |
| 五条件 | 忍辱波羅蜜 | 菩提心 | 三地菩薩 | 明 | 二種 | 三地に忍辱 | 難動三昧 | 難勝力 |
| 五条件 | 勤策波羅蜜 | 菩提心 | 四地菩薩 | 焰 | 二種 | 四地に勤策 | 不退轉三昧 | 大利益 |
| 五条件 | 静慮波羅蜜 | 菩提心 | 五地菩薩 | 難勝 | 二種 | 五地に静慮 | 宝花三昧 | 種種功德莊嚴 |
| 五条件 | 智慧波羅蜜 | 菩提心 | 六地菩薩 | 現前 | 二種 | 六地に智慧 | 日月光焰三昧 | 円満智 |
| 五条件 | 方便勝智波羅蜜 | 菩提心 | 七地菩薩 | 遠行 | 二種 | 七地に方便 | 一切願如意成就三昧 | 法勝行 |
| 五条件 | 願波羅蜜 | 菩提心 | 八地菩薩 | 不動 | 二種 | 八地に願 | 現前証住三昧 | 無尽藏 |
| 五条件 | 力波羅蜜 | 菩提心 | 九地菩薩 | 善慧 | 二種 | 九地に力 | 智藏三昧 | 無量門 |
| 五条件 | 智波羅蜜 | 菩提心 | 十地菩薩 | 法雲 | 二種 | 十地に智 | 勇進三昧 | 破金剛山 |

上記の五条件（=五種法）とは対照的に、『摩訶般若波羅蜜經』¹²⁾ は、一地には十法、二地には八法、三地には五法、四地には十法、五地には十二法、六地には六法、七地には二十法、八地には五法、九地には十二法を配しており、Svpにおける十種の五条件との一致は見当たらない。

3. 十地

次に、十地の菩薩のそれぞれの特徴と十地の名前の由来について述べる。『大智度論』「発趣品」¹³⁾の分類によるとここで説明される十地は「但菩薩地」¹⁴⁾に当たり、いわゆる「共の十地」¹⁵⁾に対する「不共の十地」である。歡喜から始まっている十地説は「華嚴十地」とも呼ばれ、Svpはその十地を以下のように独自の説明をしている¹⁶⁾。

十地の一通りの説明が終わった後に、二種の障碍 (= 無明) が一地から十地までの各段階で妨げになることが説かれる。注目すべきことは、十地の障碍について述べた後に仏地に進む段階に二種の障碍が妨げになることが説かれることだ¹⁷⁾。

この十地の障碍についてはSvp以外の經典等には説かれていない。唯一、『大事』に、十地の一地から六地までの地の退転の原因が述べられ、一地には十二種の原因、二地には二十八種の原因、三地には十四種の原因、四地には七種の原因、五地には四種の原因、六地には二種の原因が示されている。但し、それらはSvpにおける十地の各地における障碍と共通性を持つが、内容は全く違う。

この障碍を失くすために、Svpでは十地それぞれに十波羅蜜を当てている。十地への波羅蜜の配当は、『摩訶般若波羅蜜經』「発趣品」¹⁸⁾にも見られ、Svpの十地説はそれに影響を受けたことが推定される。

菩薩摩訶薩が十地の各地に十波羅蜜をそれぞれ配当させ、菩提心を発す。その十段の発心においてそれぞれ妙宝三昧等¹⁹⁾の十種の三昧を撰受し、依功德力等²⁰⁾の十の陀羅尼守護呪を獲得する。その十種の陀羅尼守護呪により十地の菩薩摩訶薩が諸々の怖畏、悪獸、悪鬼、人、非人から守られ、怨賊、災横、一切の毒害から離れ、そのすべてが除滅し、「煩惱、業、生、法、所知」の五障から解脱することができると説かれる。ここで世尊の菩提心についての説明が終わる。その後、師子無碍光焰菩薩が登場し、讚仏の頌を説く。

4. 經典功德

「最浄地陀羅尼品」の最後に經典の功德が説かれる。最初に大自在梵天王が登場し、經典功德について述べ、それに続き世尊がさらに詳しく、以下のように説明を加えている²¹⁾。

海印出妙功德陀羅尼等の十種の勝陀羅尼門を獲得すれば、三万億の菩薩摩訶薩が無生法忍を得る。無量の諸菩薩は菩提心を退けることなく、無量無辺の比丘と比丘尼たちが法

眼浄を得て、無量の衆生が菩提心を発することができる。

最後にこの経典を説く際に、菩提道場において香、花、繒綵、幡蓋などによって供養すれば、国民が安穏快樂を得て、国土が安全になると説かれる。

5. おわりに

Svp における十地説を検討するために、「最浄地陀羅尼品」を (1)「菩提心」、(2)「十地」、(3)「経典功德」という三部分にわけ、内容の分析を試みた。(1)では十波羅蜜によって菩提心が得られ、それら十波羅蜜にはそれぞれ五条件が求められることを説明した。(2)では菩薩が十地の各地において二種の障碍を退治するために波羅蜜を獲得し、三昧を摂受し、陀羅尼守護呪を得て障碍から離れ、菩提心を発することを説明した。(3)では *Svp* の功德により、菩薩摩訶薩が不退地に留まることができ、十の勝陀羅尼門を獲得することができ、三万億の菩薩摩訶薩が無生法忍を得て、無量の諸菩薩が菩提心を退けることがなく、無量無辺の比丘と比丘尼たちが法眼浄を得て、無量の衆生たちが、菩提心を発することができることを述べた。

最後に *Svp* は『仏説莊嚴菩提心経』²²⁾、『仏説大方広菩薩十地経』²³⁾、『大宝積経』「無尽慧菩薩会第四十五」²⁴⁾ の構造と非常によく似ていることを指摘しておきたい。それについては今後の研究課題とする。

-
- 1) T16, No.664, pp. 372c3-377b5. 2) T16, No.665, pp. 417c20-422b20. 3) P14, No.174, pp. 12a-157a. 4) P14, No.175, pp. 157a-283a. 5) P13, No.176, pp. 55a12-393a23. 6) P13, No.177, pp. 393a24-691a22. 7) T16, No.665, p. 417c26-c27. 8) T16, No.665, pp. 417c27-418a2. 9) T16, No.665, p. 418a4-a19. 10) T16, No.665, p. 418a20-b11. 11) T16, No.665, p. 419a20-b6. 12) T8, No.223, pp. 256c3-259c15. 13) T25, No.1509, pp. 409c20-416a21. 14) T25, No.1509, p. 411a26-a29. (歡喜, 離垢, 有光, 增曜, 難勝, 現在, 深入, 不動, 善根, 法雲.) 15) T25, No.1509, p. 411a26-a29. (乾慧, 性, 八人, 見, 薄, 離欲, 己作, 辟支仏, 菩薩, 仏.) 16) T16, No.665, p.419c4-c23. 17) T16, No.665, p. 420a9-a11. 18) T8, No.223, pp. 256c3-259c15. 19) T16, No.665, p. 420a18-a27. 20) T16, No.665, pp. 420a28-421b22. 21) T16, No.665, p. 422a5-a23. 22) T10, No.307, pp.961b4-963b3. 23) T10, No.308, pp.963b8-965b27. 24) T11, No.310, pp.648a12-650b16.

〈キーワード〉 金光明経, 最浄地陀羅尼品, 菩提心, 十地, 経典功德

(東洋大学大学院)